

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-141	C-169	22-412	佐賀県医療センター好生館 角南隆史 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)			
Screening and brief intervention for substance use disorders in times of COVID-19: potential opportunities, adaptations, and challenges COVID-19 の時代における物質使用障害のスクリーニングと簡易介入：潜在的な機会、適応、および課題			
執筆者			
Ghosh A, Sharma K.			
掲載誌			
Am J Drug Alcohol Abuse. 2021;47(2):154-159. doi:10.1080/00952990.2020.1865996			
キーワード			PMID
簡易介入、COVID-19、物質使用障害			33481639
要旨			
<p>現在進行中のパンデミックは、日常的な治療サービスを突如中断させることになりました。その結果、すでに存在する物質使用障害の治療ギャップは拡大する可能性が高まります。この前例のない課題に対応するために、スクリーニングと簡易介入（SBI）の範囲を拡大する必要があります。SBI の簡潔さ、柔軟性、一般化の可能性は、パンデミックに関連した構造的、組織的、心理的な障壁に対処するための位置づけとなっています。SBI の標準的な内容は、現在の状況に適応するように変更することができます。また SBI は、感染リスクを最小化するための戦略を提示する手段としても使用することができます。この論文では、現在の状況で SBI を拡大し実施する際の課題を予想し、潜在的な解決策を提示します。SBI は、COVID-19 の期間中、物質使用障害の治療ギャップを埋めることができるでしょう。</p>			